

亀さん通信

新しい一年が始まりましたが、いかがお過ごしでしょうか！

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかりと・確実に身に付けていただく【亀さん通信】第 124 号発信！

あなたの最大の資産は？

『人的資本』。見慣れない言葉だと思いますが、資産運用を考えるうえではとても大切な考え方です。今回は、投資指南本でもほとんど書かれることのない、『人的資本』について学んでいきましょう！

『人的資本』とは、**将来得られるであろう収入を現在の価値に評価**したもの。ちょっと分かりにくいですね…。たとえば、30 歳の会社員は仕事や能力にもよりますが、恐らくは**1 億円を超える人的資本を持っている**と考えることができます。その理由をご説明しましょう。

30 歳の会社員が定年まで働くと、30 年以上にわたって毎年数百万円からの収入が得られます。よって、将来得られるであろう収入は 2 億円以上あるかもしれませんが、その金額を**金利とリスクを織り込んだ利回りで現在の価値に評価**。そうすると、1 億円を超える現在価値があるだろうということです。ちなみに「サラリーマンは体が資本だ」とよく言われるように、ほとんどの人は何らかの人的資本を持っています。それでは、具体的に見ていきましょう。

先の会社員が 150 万円の普通預金と 300 万円の株式を持っているとしたら、どう思いますか？ 450 万円の金融資産の 3 分の 2 を株式で持っていますから、非常に大きなリスクを取っているように思うかもしれません。しかし、**150 万円の普通預金と 300 万円の株式と 1 億円以上の人的資本が資産**だと考えて、その状況を客観的にながめると、風景が少し違って見えるのではないのでしょうか。我が国の年金積立金の運用などよりもずっと低リスクで、**ずいぶん手堅い運用**に見えます。

一般的に「若い人は資産運用で大きなリスクを取っていい」といわれることがあります。とはいえ、その正しい理由を答えられる人は多くありません。「長期にわたって投資できるため、リスクが縮小するから」と新聞や雑誌などでもよく目にしますが、残念ながら**ファイナンス研究的に（という以前に、単に数学的に）誤り**です。これは、マネー本の著者などが持っている**知識の正確性をはかる有効なチェックポイントの 1 つ**なので、覚えておくといいでしょう。もうお分かりだと思いますが、正解は「**人的資本を考えると、金融資産の運用で取るリスクが相対的に小さいから**」となります。

とはいえ、人的資本には個人差があります。たとえば、若くても病気などの事情で収入を得ることが難しい人は、人的資本が小さくなります。そのような人が、「自分は運用期間が長いから大きなリスクを取ることができる」と思い込み、大きなリスクを取ること是不適切。こうした個人差を理解してお金を運用することは重要ですが、**金融機関は顧客についてそこまで親身に考えてくれません**。顧客がお金を持っていれば、彼らはそのお金から**最大限の手数料を取りたい**と考えるでしょう。それが現実です…。

若くて健康な人の人的資本は大きくて割合安定していますが、高齢になると、今後稼ぐことができる時間が短くなりますし、健康の問題から稼ぎが不安定になるリスクもあって、人的資本の価値は落ちます。その代わりに、平均的に高齢者の方が若年者よりも大きな金融資産を持っています。**人的資本が縮小する老後までに大きな額の金融資産や実物資産を築く**。それができれば、**あなたの人生は経済的に成功した**といえるでしょう。いかがでしたか？ 人的資本を考えると、**投資なんて怯える必要はない**と思いませんか！

本年もよろしくお祈りします！

（株）亀山保険事務所 亀山裕弘（ミヅロ） 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com

